

# 渋沢栄一と江東区をつながり

日本近代史に大きな足跡を残し、「日本資本主義の父」といわれる渋沢栄一は、明治9年から12年間、深川福住町(現・江東区永代2-37)に居を構えていました。また、政治とは距離を取っていたといわれる中、旧深川区の区会議員・議長や深川区教育会会長を務めるなど江東区との深いつながりがありました。

実業家としての第一歩を踏み出し、近代日本の礎を築いた場所「江東区」と「渋沢栄一」のつながりを解き明かします 〇 文化観光課文化財係 ☎3647-9819、FAX3647-8470  
観光推進係 ☎3647-3312、FAX3647-8470

## 渋沢栄一とは

約500の企業、約600の社会事業を育成  
日本資本主義の父



▲渋沢栄一肖像/渋沢史料館所蔵

渋沢栄一は天保11年(1840)2月13日、武蔵国榛沢郡血洗島村(現・埼玉県深谷市血洗島)に生まれました。明治2年(1869)、明治政府から出仕を命じられ、民部省・大蔵省に勤務し、日本の近代化に必要な制度の導入を手がけました。明治6年(1873)に大蔵省を退官し、以後、実業界での仕事や社会・公共事業に邁進していきます。論語の教えを基盤にした経済活動、さらに公益性を重んじる精神で約500の企業、約600の社会事業を育成しました。

YouTube 江東区公式チャンネルで配信中!



左記二次元コードから視聴できます

## 栄一、江東区に居を構える

転居後も本籍地は 深川区福住町

明治9年(1876)4月、栄一は深川福住町(現・永代2-37)に土地と家作を購入し、同8月に転居しました。当時の深川は多くの水路や堀割が設けられ、物資の運搬や荷揚げに便利で、商家の蔵や木場などがあり、物流や物資の集積地として栄えていました。また、深川は商業の中心地である日本橋に近いので、栄一にとっては便利な場所でした。栄一は明治21年(1888)に、日本橋区兜町へ転居しますが、晩年まで本籍地を深川区福住町にしており、深川に対して特別な思いがあったのかもしれません。



▲① 渋沢栄一宅跡にある説明板

## 栄一と江東区の関係

旧深川区の区会議員・議長、深川区教育会会長に就任

転居した後も江東区と縁が切れたわけではありません。明治22年(1889)には旧深川区の区会議員に当選し、区会議長に就任しました。また、旧深川区の教育向上を目的に設立された「深川区教育会」では会長に就任しています。区には教育会での演説記録が残されており、「教育はただ知識を与えるというばかりでなく、責任を重んずることが第一」と説き、「教育は教場の中において成長するものでなく、家庭というものが教育について大なる責任を持つ」という持論を述べています。



▲深川区会議長 渋沢栄一 (「深川区史」上巻より)

## ますます目が離せない渋沢栄一

今、渋沢栄一は2021年NHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公や2024年に新一万円札の肖像画に起用されるなど大きな話題を呼んでいます。また、明治から昭和にかけて栄一とその家族が暮らした旧渋沢家住宅は、深川から三田を経て青森県六戸町に移築されていましたが、邸宅の建築を手掛けた、名工二代清水喜助に連なる、清水建設株式会社に受け継がれ、2023年に江東区潮見の同社敷地内に移築が予定されています。区内には栄一の功績とその足跡が多く残されています。



▲新一万円札 (出典：財務省ホームページより)



▲青森県六戸町時代の旧渋沢家住宅 (清水建設株式会社提供)

大河ドラマ「青天を衝け」(NHK)  
2月14日(日)放送スタート  
毎週日曜日 総合 午後8時  
BSプレミアム・BS4K 午後6時



主演：吉沢亮(渋沢栄一役) 作：大森美香  
音楽：佐藤直紀 題字：杉本博司

## 渋沢栄一 略年譜

和暦	西暦	年齢	月	内容
天保11	1840	0	2	13日、武蔵国榛沢郡血洗島村(現・埼玉県深谷市血洗島)に生まれる。渋沢家は代々の農家で、畑作、養蚕、藍玉製造販売などを行っていた。
元治元	1864	24	2	一橋慶喜に仕える。
慶応2	1866	26	12	14代将軍家茂の死去に伴い、一橋慶喜が将軍に就任。栄一は幕臣となる。
慶応3	1867	27	1	徳川昭武(慶喜の弟)に従い、パリ万博使節団の一員としてフランスへ渡る。
明治2	1869	29	1	静岡藩に商法会所を設立。頭取となり、実質的に事業を取り仕切る。
			11	明治政府に出仕。
明治6	1873	33	5	大蔵省を退官。
			6	第一国立銀行(同29年に第一銀行。現・みずほ銀行)開業。栄一は総監役に就任。
明治9	1876	36	5	養育院事務長に就任(同12年、院長に改称し、終生務める)。
			8	26日、深川福住町(現・永代2-37)へ転居する。
明治11	1878	37	11	深川福住町に「表座敷」が落成。
明治15	1882	42	7	28日、深川に倉庫会社を設立(同19年、解散)。
明治17	1884	44	7	浅野総一郎との出資により、匿名組合浅野工場を発足(現・太平洋セメント株式会社)。
明治19	1886	46	4	深川福住町の住宅に寄寓する書生らを集め、竜門社を組織し、「竜門雑誌」を発行する。
明治20	1887	47	2	高峰謙吉に協力して、東京人造肥料会社を設立(現・日産化学株式会社)。
明治21	1888	48	12	6日、日本橋区兜町(現・中央区日本橋兜町)へ転居する。以後、深川福住町の住宅は長男篤二の住まいとなる。
明治22	1889	49	11	深川区会議員に当選し、区会議長を務める。
明治24	1891	51		深川区の学務委員に選出される。
明治30	1897	57	3	澁澤倉庫部を設立(現・澁澤倉庫株式会社)。
明治35	1902	62	12	深川区教育会の会長に就任する。
明治37	1904	64	10	深川区会議員および区会議長の職を辞し、区会より感謝状を贈られる。
明治41	1908	68	9	深川福住町の住宅を芝区三田綱町(現・港区三田2)へ移築。
明治42	1909	69	6	多くの企業および諸団体の役職を辞任。
大正5	1916	76	7	第一銀行頭取を辞任し、実業界から引退。
昭和4	1929	89	5	楽翁公遺徳顕彰会が設立され、会長に就任する。
			6	深川区霊巖寺において楽翁公百年忌墓前祭が行われ、挨拶を行う。
昭和6	1931	91	6	清澄庭園大正記念館で開催された楽翁公記念講演会に出席する。
			11	11日、死去。

深川在住  
旧渋沢家住宅 深川福住町時代

## 区内の渋沢栄一ゆかりの場所一覧

1 渋沢栄一宅跡	15 東京府瓦斯局
2 福住福荷神社	16 東京人造肥料会社
3 澁澤倉庫部	17 (株)大島製鋼所
4 第一国立銀行深川支店	18 日本化学工業(株)
5 第二国立銀行深川支店	19 抄紙会社亀戸工場
6 渋沢商店	20 東京運河土地(株)
7 松組	21 大日本製糖(株)
8 伊勢勝白煉瓦製造所	22 汽車製造合資会社
9 浅野工場	23 澁澤家洲崎養魚場
10 松平定信墓	24 深川電燈会社
11 帝国商業銀行深川支店	25 園女歌仙桜の碑
12 旭焼組合	26 明治卅七八年役戦死者忠魂碑
13 東京印刷(株)深川分社	27 石川島平野造船所
14 東京製綱会社深川分工場	28 旧渋沢家住宅移築予定地

※●は現存または、現地に石碑・説明板等が設置



▲16 東京人造肥料会社跡地にある化学肥料創業記念碑



▲25 園女歌仙桜の碑 ※渋沢栄一が描いた題字が陽刻されています